

ゴーゴー!! シニア・シルバー世代 活躍する高齢者 (シルバー編)

ふれあいショップ「いこい」で働く
福生市シルバー人材センター会員の皆さん

もしかしたら、あなたは10歳若返る!?
「いこい」は、元気をふれあいの発信源。

東京都福生市にある、福生市シルバー人材センターが設置・運営するふれあいショップ「いこい」は、高齢者の会員が積極的に市民の方々と触れ合い、就業の拡大や地域に貢献できる場として平成22年4月1日にオープンしました。「いこい」に従事する会員の皆さんに、働く喜びや楽しみを伺いました。



——福生市シルバー人材センター会長の天野さんに「いこい」の概要をお尋ねします。オープンのきっかけは何だったのでしょうか。

天野会長（以下天野） 「いこい」は、福生駅にも近く、かつて市内でいちばん賑わっていた銀座通りなのですが、今はシャッター通りになってしまいました。ここをもう一度賑やかにしたいという気持ちと、シルバー人材センターの会員が、働きながら市民と触れあえる交流の場があったらという願いからでした。

——従事している方は何人ですか

天野 66歳から84歳の会員が25人です。男性が5人、女性20人。そのうち、会員の代わりに店に出入りいただくサポーターの方が5人います。2人1組で店番する方を専任当番員と呼んでいますが、ほんのわずかですが有償ボランティアで参加していただいています。

——開設時のことを教えてください。

天野 どのように運営したらいいかがひとつの課題でした。福生市には25の地域があるのですが、そこから当番を出していただいたのですが、

3ヵ月に一度のローテーションを組むのが大変でしたし、お客様との接遇に慣れない方も多く、帳簿付けの不安など、いろいろありました。そこで公募の専任当番制にしたのですが、お互いに顔見知りとなり、それからはスムーズな運営となりました。

——「いこい」ではどんなものが販売されているのですか。

天野 衣類、アクセサリ、袋物、手工芸品、木工製品、置物、絵、写真、野菜など、会員手作りのものを中心に、お求めやすい価格でバラエティ豊かに揃えています。店内を回るだけでも楽しいと思いますよ。

——お客様はどのくらいお見えになるのですか。

天野 平成23年の11月10日に1万人を迎えました。1日平均20人くらいでしょうか。年間で6,000人ほど。今年の夏前には3万人を迎えられるんじゃないかとワクワクしています。こうした実績を評価していただけたのでしょうか、24年度から福生市の補助金もいただいて運営しています。



——「いこい」をはじめ、福生市シルバー人材センターでの活動のお話を、天野さんと、福生市シルバー人材センター会員の竹田さん、細谷さんご夫妻にお伺いします。シルバー人材センターの会員になろうと思った理由は何ですか。

竹田 定年まで会社に勤めていて、シルバー人材センターがどういうものか知っていたので、早くここで働きたいと思っていました。それで、定年になったとき「待ってました！」とすぐに会員の申し込みをしました（笑）。

細谷 定年後、家でブラブラしていても仕方ないと思い会員になりました。

天野 実は定年までシルバー人材センターの存在を知りませんでした。私は、福生市の柔道連盟で子どもたちに教えている関係で、道場のある体育館へ行くとお年寄りが受付をしているんですね。話を聞いてみるとシルバー人材センターの会員だと言うんです。それで存在を知りまして、体育館で働けば柔道にも便利だと思い、会員の申し込みをしました。

——会員になってからはどんな仕事をされてきましたか。

細谷 施設管理を6年続けました。

竹田 昭島の企業で外国人専門の受付を6年半担当してから図書館、小学生の安全見守り員に就きました。

天野 希望していた体育館の受付を担当したあと、小学生の安全見守り員として3年ほど働きました。

——会員として働くことになって感じたことはありますか。

天野 体育館の受付も小学生の見守りも、始めのうちは戸惑うことが多かったですね。始めの頃は、体育館でルールを守らないお客さんや子どもたちに、つい厳しいことを言っちゃうんですね。でも、そうではなく、ちゃんと説明しなくてはいけないんだと。ましてやシルバー人材センターの説明をする会長という立場を考えれば反省することが多かった。そのように考えています。

竹田 ものを作るのも好きなんですが、図書館で働いていたときは本棚やポスト、見守り員のときは用具入れや冷蔵庫の台など頼まれるままに作りましたが、私がお役に立てたようでうれしかったですね。こういうのも特技と呼ぶのでしょうか（笑）。

細谷 「いこい」で働いてよかったと思うことですけれど、来店されたお客様に商品の説明など





をしているうちにどんどん親しくなっていくことですね。お客様に楽しんでいただくことも私たちの役割ですから。これはうれしいことです。

——細谷さんの奥様も「いこい」に出品されているそうですね。

細谷（妻） 接客は苦手なんですけどアクセサリーを作るのが好きでして、以前の会長さんに勧められて出品してみました。それがきっかけで会員になったのですが、今は6種類ほど出させていただいています。接客のほうも皆さんと一緒になんとかこなせるようになりました。

細谷 今日はカミさんの作ったネックウォーマーをしてきたんですが、初めて来店されたお客様の目に留まりまして、一緒にいたお友達お2人にもお買い上げいただいたうえに記念写真まで撮っていただきました。隣の羽村市の方で、また寄らせてもらいますと言ってくれましたが、こういうつながりが広がることはうれしいですし、働きがいにもなっています。

細谷（妻） お茶だけでも飲み寄って欲しいですね。そういう場所として始めたのですから大歓迎です。

天野 外からのお客様には新しいコミュニケーションの場として、また会員には別の喜びの場としての意味もあるんですよ。会員の最高齢は

96歳です。手先が器用でして、鶴のクラフトとか切り絵なども出品しているんですが、その方に無償で素材を提供する方もいたり、互いの心身の活性化にもなっているんですね。それだけでなく、ここに作品を置いて欲しいと希望する方もいまして、会員になる必要があると説明すると入会していただいたこともあります。自分を表現するということは高齢の方の大きな励みにもなっているのじゃないかな。

細谷 福島県飯舘村の方が和服の生地で作った袋物も人気ですよ。飯舘村という名前は反応が大きいですね。福島を支援しようという気持ちが広がっているのだと思います。「いこい」はその橋渡しにもなっているのじゃないかな。

竹田 それから、お手玉も根強い人気がありますね。遊び方が分からない方には教えてあげると喜んでくれます。この間、テレビで紹介されたらすぐに売り切れてしまいました。こういう昔の遊び道具が、ここに来ればあるというのも「いこい」ならではの特徵にしたいですね。

——これからどのようなショップしていきたいですか。

天野 会員同士、会員と地域との交流の場というスタンスは変わりません。私自身が思っていることは「大草原の小さな家」の教会のような場所です。何かあればみんなが集まって語り合ったり、相談したり、笑ったり、泣いたり、そん



な「いこい」になればいいなと思っています。

細谷 一度寄っていただければ、二度、三度と来たくなるような店ですね。店内をゆっくり見てもらって、お茶でも飲みながら友達付き合いを深めていただければと思います。

竹田 遊びに来れば、いろいろな話ができる場所。バスを待つ時間や雨宿りにでも気ままに使っていただける雰囲気を作っていきたいですね。

——地域活動やシルバー人材センターでの活動
をしたいけれど…という方へメッセージを
お願いします。

竹田 人はそれぞれに「いいもの」を持っているはず。会員になれば、さまざまな働く選択肢があります。そこではみなさんが持っている「いいもの」をさらに生かせるはず。ぜひ会員になって一緒に元気に働きましょう。

細谷 シルバー人材センターで開催している説

明会に参加していただければ詳細がお分かりいただけますが、「いこい」の当番員にも気軽に声をかけてください。お茶でも飲みながら、世間話から始めましょう。

天野 ふれあいショップ「いこい」に来れば、あなたは10歳若返る。会員になれば、新しい生きがいが見つかると思います。みなさんがお持ちになっている才能や経験を生かさないのは、もったいない限りです。

ふれあいショップ「いこい」

住 所／東京都福生市本町72
開店時間／4月～10月 10:30～17:30
11月～3月 10:30～17:00
毎週月曜日定休

